

www.geofis.com

mailgraph

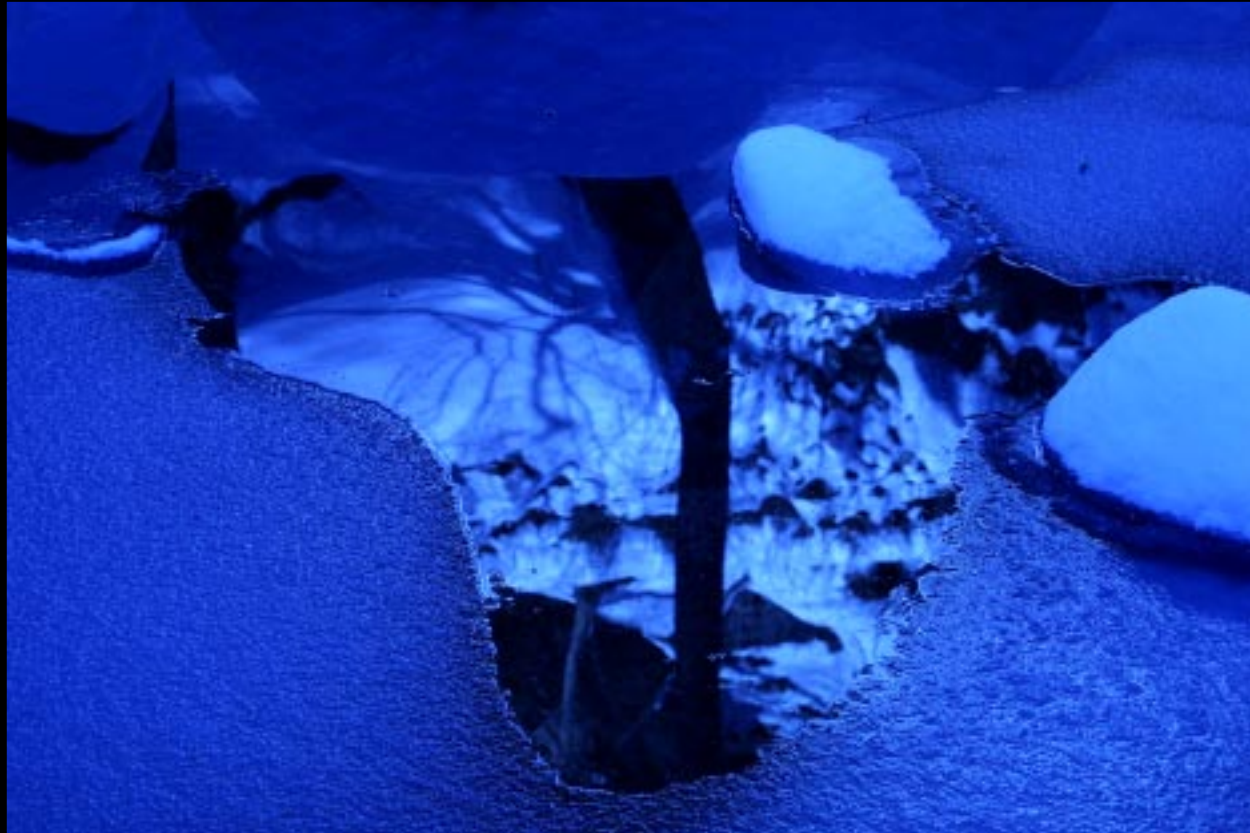
GEOL. 2003.1.7  
GEOFIS

Photographer Tatsuya Atarashi

*Copyright 2000-2003 TATSUANG All right reserved*

mailgraph GEOFIS vol.9

荒川源流 3 [ 沈黙の谷 ]



2003 . 1 . 7



林道沿いに真新しいキツネの足跡があった。新雪は野生動物の動きを知る豊かな情報源だ。



雪の斜面に夥しい鳥の羽があった。未明にヤマドリの雌が何ものかに襲われたのだ。先ほど見かけた足跡の仕業だろうか。ヤマドリは死んでしまったが、キツネは生き延びることができた。美しい幻想だけで自然をとらえることはできない。





谷の雪は半ば凍りついていた。どうしてこのような紋様ができるのか判らないが面白いと思った。  
このどれもが水の変化なのだから。



木の葉や小枝にまとわりついた水が凍っている。様々な形の小さな塊がまるで生き物のようだ。  
じっと見つめると、今にも動き出しそうだ。あるいは別世界の生命なのかも知れない。



夏の間は気付かないが、こうして葉が落ちてみると、斜面のあちこちにりっぱな木々。  
昭和の皆伐を間逃れた木たちだ。百年、いや、千年後の森が楽しみだ。





谷の歴史を見つめ続けてきたであろう、カツラの巨樹。  
山ノ神は様々だが、思わず頭を下げてしまう。木は地のエネルギーそのものだ。





大地にしっかり根を張った木は人間の尺度を遥かに超えた時間を生きている。  
その木々のもと、動物たちはそれぞれの時間を生きる。カモシカだろうか？リズムカルな曲線のトレースが美しい。



呼吸する植物の吐き出す熱が水滴となり、やがて大きな牙を持った別な生き物に変幻する。  
その重さを支えるのは並み大抵ではないだろうに。



名も知れぬ滝が凍てついている。今にもその大口に食らいつかれそうで、内心穏やかではなくなる。  
オカザキ ゾンゾロシーガ シルコヲタレタータ 祈りの呪文。





荒川源流・入川。この流れがやがて関東平野を縦断し、首都圏の命を支える。  
黒グロとした急流はまさに水神の様相だ。





幾重にも蛇行しながら水は流れる。  
けっして一所に留まることなく、絶えまなく輪舞する。



赤沢谷出合。荒川の起点だ。これより上流、荒川は真の沢となり源頭へと続く。  
今回の目的はこの奥に見えるカツラに逢うこと。年の始まりに何としても訪ねたかった。



飛沫は凍てつき、雪を被りつつ、源流は音をたてて流れる。そのエネルギーこそ、求めるもの。  
辺りに響く水音に呼応するごとく、ストレートにレンズを向ける。





変幻自在な水。命を育む水。森と水との相関関係に命のありかたを問うていきたい。





水と風が織り成す静かな関係。



深く沈んだ水面に柔らかい冬の光が反射する。深淵な谷に差す日射しは僅かだ。  
それだけで心が救われる。光が恋しくなる。極北は今、闇に包まれているのだろうか。



対岸の山を照らす西日が川面に写る。寒さに震えながら、その微かな光を捕らえようと必死になる。  
まだ、消えないで。光は熱だ。だが、水もまた熱となる。

mailgraph GEOFIS vol.9

END



Photographer Tatsuya Atarashi . Copyright 2003 TATSUANG All rights reserved.